

花壇へ花植え

5月31日

地下鉄真駒内駅前通りと南区役所前周辺の植樹升に、地域の皆さんがペチュニアとサルビアの植栽を行いました。真駒内緑小学校の児童も参加し、心を込めて苗を植えていました。作業を終え「ご苦労さま」と声を掛けられた児童たちは、うれしそうに顔をほころばせていました。



きれいに咲き続けてね！▶



田植えを体験

6月7日

北方自然教育園の体験農場で、澄川西小学校と簾舞小学校の5年生が田植えを行いました。靴を脱ぎ、水田に恐る恐る足を踏み入れた児童たちは「ぬるぬるして気持ち悪い」、「足が抜けない」などとはしゃぎながらも、上手にもち米の苗を植えていました。秋には実った稲穂を刈り取り、学校でもちつきをして味わいます。

◀うまく歩けないよ！

見る・知る・遊ぶ

ふるさと⑭

札幌軟石と望豊台

▼採掘場の様子（昭和29年頃）札幌写真ライブラリー所蔵



切り出しは全て手作業。約三百人いた石工は何種類もの道具を使い、様々な大きさの直方体に仕上げました。これらは当初、馬の背に二つずつ積んで運ばれ、明治九年からは

札幌には、石造りの蔵や倉庫、住宅など、趣きのある建築物が点在しています。これらの中には、石山付近で採掘された札幌軟石を利用したものが数多くあります。札幌軟石（支笏噴火熔結凝灰岩）は、明治初期、当時の開拓使がアメリカから招へいたケプロンと共に来札したアンチセルが、石山一帯の地質調査で発見。明治八年に採掘が始まって以来、防火と寒冷地に適した建築資材として用いられ、採石量は明治八年で約二万個、最盛期（大正昭和）で三十万個と、石山地区は活気に湧いた時代でした。

馬車で運ばれるようになりました。重たい石を積まれた馬にとつて、現在の石山陸橋付近は急な坂道で大変な重労働。そのため坂の頂上には常時交代の馬が数十頭おり、そこで荷を積み替えて札幌まで運んだのです。仕事を終えた馬は頂上でゆっくりと草を食べて一休み。人々も眼下の豊平川を望みながら疲れを癒しました。こうした坂の中継点は望豊台と呼ばれました。

高台にたたずむ二つの碑は、石山の歴史を今に伝えています。



▲副碑には「望豊碑」の由来が記されています

